令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
施設名	調布市グリーンホール
内定額	7,945　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	調布国際音楽祭2025　バッハ・コレギウム・ジャパン　オペラ《ロデリンダ》	6月28日	調布市文化会館たづくりくすのきホール
公-02	調布国際音楽祭2025　ヴォクス・ルミニス招聘公演	6月26日	調布市文化会館たづくりくすのきホール
公-03	調布国際音楽祭2025　オープニングコンサート	6月22日	調布市グリーンホール大ホール
公-04	三ツ橋敬子がオーケストラで彩るクラシカル・クリスマス	12月21日	調布市グリーンホール大ホール
人-01	調布国際音楽祭2025　オーケストラアカデミー	6/24～27、6/29	調布市グリーンホール大ホール
人-02	調布国際音楽祭2025　新しい音楽をつくるvol.4（作曲ワークショップ）	6月21日	調布市文化会館たづくり　むらさきホール
人-03	劇場から地域につながるプロジェクト　地域とつながるアーティスト養成プログラム	10/30、1/13、2/2、2/10、2/16、2/17、3/10	調布市グリーンホール会議室、調布市文化会館たづくり
普-01	劇場から地域につながるプロジェクト　グリーンホール　オープンデー	8月31日	調布市グリーンホール大ホール
普-02	おとみっく～音の旅　調布オリジナルヴァージョン	3月20日	調布市文化会館たづくり　くすのきホール
普-03	グリーンホールがやってくる！プロジェクト　音楽アウトリーチ	9/18，9/19，9/24，9/30，10/3，10/14，10/18	調布市内の小・中学校
普-04	劇場から地域につながるプロジェクト　特別支援学校インリーチ	1/19，2/5	都立特別支援学校、調布市グリーンホール

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	26	24	24
	公演事業	8	8	7
	（内、本助成対象事業本数）			4
	人材養成事業	1	2	3
	（内、本助成対象事業本数）		2	3
	普及啓発事業	17	14	14
	（内、本助成対象事業本数）		4	4
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	492	480	480
	ホール名：大ホール　座席数：1301	248	240	240
	ホール名：小ホール　座席数：300	244	240	240
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	26,426	28,701	26,104
	公演事業	19,326	20,708	17,871
	人材養成事業	983	1,346	1,306
	普及啓発事業	6,117	6,647	6,927
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	146,892	145,000	151,870
	その他　内容：記入してください			
	計	173,318	173,701	177,974
開館日数		309	308	308
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））				
施設の利用日数				
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		0.0%	0.0%	0.0%

備考	

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	25	157	22,949	1	16		3	4	1	
	共催・提携公演（※2）	16	55	11,944	1	7	1	3	4		
	貸館公演	29	30	104,469	1	22	6				
	計	70	242	139,362							
令和6年度	主催公演（※1）	23	121	25,584	1	13		4	4	1	
	共催・提携公演（※2）	15	40	15,551		8	1	2	3		1
	貸館公演	37	40	113,106	1	20	6	10			
	計	75	201	154,241							
令和7年度	主催公演（※1）	22	113	26,154	1	13		3	4	1	
	共催・提携公演（※2）	17	37	16,762		8	1	4	4		
	貸館公演	40	33	70,806	1	22	3	3	1	5	5
	計	79	183	113,722							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	調布国際音楽祭2025　バッハ・コレギウム・ジャパン　オペラ《ロデリンダ》	目標値	406	86.4%	地域の文化が	大いになった、なった	「地域の文化に対する誇りや愛着が高まりましたか」に「非常にそう思う」「そう思う」と回答した方が
		実績値	477	96.1%	より誇らしくなったか	併せて90%	併せて92.8%で、目標を達成できた。
公-02	調布国際音楽祭2025　ヴォクス・ルミニス招聘公演	目標値	406	86.4%	批評の内容		リオネル・ムニエと鈴木優人の友情から生まれた本公演は、音楽と人との深い結びつきを体現。終盤では歌手が客席を四方から囲むように歌い、ホールの響きと相まって教会のような響きを醸し出し、7色の虹が広がるような合唱の理想形と高く評された。
		実績値	364	73.4%			
公-03	調布国際音楽祭2025　オープニングコンサート	目標値	850	75.7%	新しい気持ちや考え方に	普及啓発事業と同じ	2.新しい考え方や視点に気づいた　3.誰かとこの気持ちを分かち合いたいと思った　4.自分の考え方や感じ方が少しかわった
		実績値	1,060	94.3%	気づくことはあったか	1.感動したり、興味がわいた場面があった　2.新しい考え方や視点に気づいた　3.誰かとこの気持ちを分かち合いたいと思った　4.自分の考え方や感じ方が少しかわった　5.特になし　左記の選択肢のうち、2～4の選択数の合計が60%	上記2～4の合計が60%で目標を達成することができた。
公-04	三ツ橋敬子がオーケストラで彩るクラシカル・クリスマス	目標値	870	70.1%	40歳以下の来場者数	全体の20%以上	19歳以下から30歳代までが来場者全体の32.8%を達成し、目標を大きく上回った。
		実績値	828	70.4%			

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
施設名	調布市グリーンホール
内定額	7,945　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	調布国際音楽祭 2025 バッハ･コレギウム･ジャパン　オペラ《ロデリンダ》	入場者数(率)および有料入場者数(率)、評価指標のすべての目標を達成している。地域ならではの内容、企画内容の魅力や希少性を広く伝えられたことにより集客が増えたことが大きいと思われる。
公-02	調布国際音楽祭 2025 ヴォクス・ルミニス招聘公演	入場者数(率)および有料入場者数(率)は目標に達しなかったが、評価指標では高評価を達成している。企画内容の魅力に加え、公演の質の卓越性が際立ったことが大きいと思われる。
公-03	調布国際音楽祭 2025 オープニングコンサート	入場者数(率)および有料入場者数(率)、評価指標のすべての目標を達成している。地域ならではの内容、企画内容の魅力を広く伝えられたことにより集客が増えたことが大きいと思われる。
公-04	三ツ橋敬子がオーケストラで彩るクラシカル・クリスマス	入場者数および有料入場者数は、やや目標に達しなかったものの、評価指標では目標を達成している。地域資源や若年層にフォーカスした企画内容やその魅力を伝えられたことが大きいと思われる。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	パブリシティへの掲載数	30 件 ※令和 6 年度実績 28 件	公 1～3　調布国際音楽祭 27 件 公 4　5 件 合計　32 件
人材養成事業	今後の自身の音楽活動にとって有意義な新しい発見があったか	沢山の発見があったが 80%以上 ※令和 6 年度 86%	実績値は 100%
普及啓発事業	新しい気持ちや考え方に気づくことはあったか（複数選択可）	1.感動したり、興味がわいた場面があった　2.新しい考え方や視点に気づいた　3.誰かとこの気持ちを分かち合いたいと思った　4.自分の考え方や感じ方が少しかわった　5.特になし 上記の選択肢のうち、２～４の選択数の合計が 60%	実績値は 73.5%
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	事業全体の注目度は高く、パブリシティで取り上げられた件数も当初目標値を着実に超えており評価できる。公演内容は、レジデントアーティストである鈴木優人やバッハ・コレギウム・ジャパン(協定団体)との関係性から生まれたオペラやヴォクス・ルミニスの初来日公演により、地域らしさを発信、創造性かつ国際性、企画性の向上に貢献したと言える。また、クラシカル・クリスマスでは、地域産業である映画由来のポップカルチャーとクラシックを融合した革新的な内容に加え、地元桐朋学園大学(協定団体)出身のソリストを起用し、40 歳以下の来場者目標 20%を大きく上回る 32%が来場、若年層に強いインパクトを与えた。こうしたレジデントアーティストや地域の協定団体と連携した公演で演奏の質の向上に取り組んでいる点は、地域の文化に対する誇りや愛着にもつながっており、今後も継続的な成果が期待される。

人材養成事業	
自己評価	オーケストラアカデミーでは、審査を通過した 80 人(内、海外 7 人)が参加した。世界的指揮者鈴木雅明を中心とした一流の講師陣の指導のもと、4 日間のリハーサルやキャリア支援プログラムを実施した。選抜メンバー7 人は地域のユニークベニューで演奏を行い、クラシック音楽愛好家以外のニーズを体感できる機会を創出した。本アカデミー第 1 期生で受賞歴多数の岡本誠司がソリストを務めたことも、事業の波及力を示しており、我が国のクラシック音楽分野を牽引する人材育成事業への発展が期待される。 地域とつながるアーティスト養成プログラムでは、共生社会の実現と特別支援教育の充実という地域課題に向き合い、市内 2 校の協力のもと実施した。昨年から継続参加する 6 人の若手演奏家が講師のもと 3 回のワークショップで研鑽を積み、特別支援学級での 4 回の実践に臨んだ。楽器演奏や身体表現など多様なアプローチを通じて、児童の主体性や変化を引き出し、学校関係者からも高い評価を得た。本事業は、音楽を通じた共生的な教育支援のあり方を模索する先進的事例であり、演奏家自身の創造性とコミュニケーション能力の向上にも寄与した。

普及啓発事業	
自己評価	普及啓発事業では、73%の参加者が新しい気持ちや考え方に気づくことがあったという回答を得た。オープンデーでは、障害者や未就学児など、文化芸術にアクセスしにくい層の来場につながった。市内メディアにも取り上げられ、「開かれたホール」としてのイメージ向上と新たな鑑賞者の開拓につながった。 音楽アウトリーチでは、協定団体である桐朋学園の金管楽器・声楽専攻生と講師が市内の小中学校 8 校を訪問した。小学校では、子どもたちの主体性を重視した参加型プログラムを展開、一部特別支援学級も参加した。中学校では部活の地域移行を見据え合唱部で実施した。専門性の高い指導が必要とされるなか、講師の演奏指導は教育現場から高い評価を得た。インリーチでは、都立特別支援学校と連携し、知的障害児が劇場で音楽を体験する機会を創出した。おとみっくによる演奏に合わせ、児童が自由に身体を動かして表現するワークショップを実施し、教員からも児童の反応の変化に驚きの声を寄せられた。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
フェスティバルオーケストラに参加した外国人数	７人 ※参考値：令和６年度参加者数７人	７人

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	世界的な協定団体や音楽大学が所在するという文化資源を活かし、文化芸術を中心とした拠点機能を発揮する事業として行っている調布国際音楽祭では、国際交流の一層の充実を図るべく、レジデントアーティスト鈴木優人や BCJ との人脈からヴォクス・ルミニスを初めて招聘、BCJ オペラでも共演するなど高い芸術性で国内外から注目を集めた。また、オーケストラアカデミーでは、シンガポールのヨン・シゥ・トウ音楽院と連携し、海外から学生７名が参加した。各楽器セクションでは日本人受講生と演奏、自然と交流機会が生まれた。海外からの参加者は市内一般家庭にホームステイし、市民と日常生活を共にすることで地域の文化に触れる貴重な体験を得た。英語版の募集要項や通訳付きのディスカッションタイムを実施し、活発な人的交流が生まれるきっかけともなった。音楽祭では、英語版ホームページも整備し、在住・訪日外国人への情報発信を強化している。演奏家・市民・観客が国際的な文化交流を育み、地域内外の連携深化が期待される。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
アウトリーチ、インリーチで連携をとった市内の教育機関の数	12 校 ※参考値：令和 6 年度 10 校	11 校

（※4）・（※5）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	レジデントアーティストや地域を拠点とする協定団体 BCJ と連携して調布国際音楽祭を実施、地域に所在する桐朋学園大学の学生・卒業生等との協働によるプログラムを実施した。 障害者対応においては、調布市社会福祉協議会との連携により手話や字幕等の鑑賞サポートを行った。 アウトリーチでは、協定先である桐朋学園大学の学生等が市内小学校を訪問、児童と年齢の近い学生が目の前で管楽器を演奏、より児童の関心に働きかける内容となった。令和 3 年から継続しているアウトリーチは、市内小学校 20 校中通算 15 校での実施となり、地域に根差した活動として定着しつつある。児童へのアンケートでは、77%がコンサートに「行かない」「めったに行かない」と回答しており、子どもの鑑賞機会確保のため、地域の教育機関との連携の発展が期待される。 子ども対象の体験事業も多角的に展開し、上記のほか、オーケストラアカデミー公演でのジュニア招待には 103 人の児童が参加、未就学児からホールでの様々な文化体験をできるオープンデー、若年層をターゲットにしたクラシカル・クリスマスなど、成長に応じた多様な文化体験の機会を創出した。 市民ボランティアは年々増え、調布国際音楽祭では過去最多の 95 人が参加、ほか事業毎に常時 10 人程の市民が活動しており、文化芸術を市民と共に作り上げる土壌がグリーンホールの強みになっている。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
助成事業における障害者割引(介助者含む）を使用した来場者数の合計	40 枚以上	76 枚

（※3）・(※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	多様性を踏まえたプログラムを展開、出演者は海外からも含め若手からベテランまで多世代が関わり、世代や関心の異なる層へのアプローチにつながっている。幅広い観客に訴求する事業としてポップカルチャーを融合したクラシカル・クリスマスを実施し、U29 のチケット販売枚数は 194 枚、全体の 23%に達するなどクラシック音楽へ新たな若年層の獲得に成功した。 ホールに来場しづらい子どもや障害者を対象に、学校と連携したアウトリーチ、インリーチも継続し、子どもたちの文化体験創出に寄与した。経済的事情に関わらずホールで文化芸術に触れる機会として、無料で参加可能なオープンデーも実施した。来場者目標には届かなかったが、協定団体の学生による演奏は観客を舞台へ巻き込み親しみをもって受け入れられ、今後の継続的な展開への基盤となった。 アクセシビリティの面では、視覚・知的障害のある来場者への案内手段の拡充や、多言語情報発信、集団補聴機器の積極的な活用にも取り組み、鑑賞サポート付き公演を増やしている。施設面でも、車いすスペース、バリアフリートイレ、エレベーターもあり、バリアフリー対応も整備されている。 令和 7 年度からは障害者割引を 500 円から 1,000 円に引き上げ、介助者 1 名にも適用範囲を拡大したところ、障害者割引を使用した来場者数は目標を大きく上回る 76 人となった。障害者への文化芸術体験に関わる支援は着実に浸透してきていると言える。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・協定団体であるバッハ・コレギウム・ジャパン及び桐朋学園大学と協働し、国際的水準の文化芸術を創造・発信することで劇場に集う人々の生きがいとなることを目指していることから、芸術に日常的に触れ合える機会の創出及びグリーンホールへの愛着度を図る指標としてグリーンホールに定期的に来場する人を測定します。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
助成対象事業及び、協定事業における来場頻度 「熱心に通っている［参考：年 5 回以上］」、「よく来る［年 3～4 回程度］」、「ときどき来る［年１～２回程度］」、「ほとんど初めて／久しぶり［過去 3 年間で１～２回程度］、今回がはじめて	「よく来る、熱心に通っている」30%以上 参考値：令和 5 年度 30.9%	「よく来る、熱心に通っている」31.7%

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域を拠点とするバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)および桐朋学園大学との協定を活用し、国際的水準の文化芸術を市民に届ける事業を継続的に行い、来場頻度によって市民への文化芸術の定着度を測り、劇場の文化芸術拠点としての役割と影響力を明らかにしている。 助成対象事業および協定事業の来場頻度は、「年 3～4 回程度来場する」「年 5 回以上来場する」の合計が 31.7%となり、目標値 30%以上を達成した。とりわけ協定事業での来場頻度は、BCJ が最大 63%、桐朋も最大 43%と、劇場への高い愛着度が確認された。BCJ による公開リハーサルでは、来場者の過半数が年 3 回以上通っているというデータもあり、国際水準の実演芸術に継続的に触れられる環境を劇場が安定的に提供できていることを示している。高頻度来場者の存在は、劇場を定期的に訪れることで生活のリズムや生きがいを形成する市民の姿を映し出しており、地域に根ざした芸術体験の蓄積を表している。 一方、調布国際音楽祭では、ジャズを活用したオープニングコンサートでの来場者新規率は 47%、作曲ワークショップでは同 56%。また、オープンデーでの来場者新規率は 37%、クラシカル・クリスマスでは同 60%に上り、年齢的趣向、経済的事情やアクセシビリティといった理由によりこれまでホールに来場しなかった層が初めて足を運んだことが伺える。新しい観客層獲得を目的とするこれらの事業は、劇場と市民の新たな接点をつくる重要な役割を果たしている。 このように、協定団体との信頼関係に基づいた定着型の事業と、助成金を活用した新規層を獲得する挑戦型の事業を適切に使い分けることで、多様な市民に文化芸術の入口を開きつつ、継続的な鑑賞機会を通じてホールとの関係性を深めている。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
調布国際音楽祭では、毎年オープニングコンサートに地域の中学・高校生を巻き込んだ吹奏楽の公演を行っている。オーケストラアカデミーでは若手演奏家を公募しているが、今年はその中に中学高校時代にオープニングコンサートに吹奏楽で参加した学生が若手演奏家として参加した。これは、吹奏楽部員としてのオープニングコンサートへの出演が若者の将来の道を開くきっかけとなった一例といえる。そのほか、アウトリーチで訪れた市内中学の吹奏楽部員が音楽大学へ進み、若手演奏家としてオーケストラアカデミーに参加、その両親は市民ボランティアとして調布国際音楽祭に参加するなど、地域文化への愛着を示す好事例であり、当館の音楽事業が点から面へ拡がりつつあるといえる。 オープンデーでは年齢制限を設けることなく、障害者も含め、普段ホールへ来ることが難しい方など、誰でも気軽に足を運べるような仕掛けを講じた。吹奏楽公演の中では、指揮体験のほか、手作りマラカスや手拍子で来場者全員参加による「宝島」の演奏で盛り上がった。そのほかバックステージツアー、歌舞伎体験や落語発表会(助成対象外事業)も実施、多岐にわたるジャンルで子どもから大人まで、様々な世代の来場を促した。そうした中、車いす利用者の介助者としていらした方から、「ご本人が Music 大好きで“ここに来るまで、(コンサートが気になり)食事も満足にとれませんでしたが、音楽がはじまると、車イスごとゆらしながら喜んでいました。音楽の力はすごい！ですね。」という声が寄せられた。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	事業価値を適切に広報し、支援したいという層の獲得に努めている	市内全戸配布の財団報を中心に紙媒体は充実しており、WEB 上での広報展開の充実を計画している。
目標(値)（※2）	音楽祭を中心に年間100万円の寄附の獲得 （令和6年度実績1,724,000円）	来場者が当財団のホームページ・SNS で公演情報を見たという割合を10%に増やす (令和6年度実績10.9%)
実績(値)	音楽祭では1,808,946万円の寄附。 令和7年度実績1,812,229円	オープンデーでは10%、音楽祭では30%を達成。
団体の自己評価	目標値を大きく上回り、上記のほか協賛金も4,460,000円獲得できたことから、個人、企業と連携しながら文化芸術を支える基盤は定着しつつある。	音楽祭では、SNS に注力し、専門人材に業務委託している。そのことが大幅な上昇につながっており、他事業にも活用していきたい。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	国内の劇場・音楽堂と連携をとり、情報交換を行っている。多摩地域全域への発信が課題となっている。	定期的な会議を設けているほか、出向者による人事交流を継続している。
目標(値)（※2）	年2回以上施設見学や勉強会を実施し、情報共有を図る。	継続を目標
実績(値)	多摩公文による事業研究会（1回）施設見学会（1回・八王子市民会館）に参加。また都公文による施設見学会（1回・東京芸術劇場）に参加。	継続している。市の所管課とは、管理職が出席する定例会議と、共生社会担当が出席する定例会議を毎月1回実施した。
団体の自己評価	他館との情報交換を積極的に行っている。	定例会議のほか、出向者を活用し、市と密接に意見交換を行っている。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	音楽祭にはプロデューサー、監修者を設置。それ以外の事業にはアドバイザーを設置。	公文協の研修受講など必要な育成を行った上で、適性のある者を配置している。
目標(値)（※2）	将来的には館全体の芸術監督設置を検討	継続を目標
実績(値)	音楽祭では、プロデューサーと監修者を配置、それ以外の事業は桐朋学園大学の教授をアドバイザーに配置している	公文協等外部・内部研修によるアートマネジメント研修を計 6 回実施し、延べ 19 人が参加している。
団体の自己評価	新たな地域課題を解決に貢献できる団体との協力関係の構築を検討しつつ、芸術監督の設置も検討している。	研修等にも積極的に参加しており、適切と考える。社会的要請と組織課題にもとづく人材育成を行いながら適性のある者を配置できている。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	職員採用時に舞台芸術の専門性を重視すると共に、必要な研修を行い、育成に努めている。	音楽祭にはプロデューサー、監修を設置。それ以外の事業にはアドバイザーを設置。
目標(値)（※2）	継続を目標	継続を目標
実績(値)	舞台芸術の専門性を重んじた人事配置を継続している	継続している
団体の自己評価	アートマネジメントの能力が多岐にわたるため、アートマネジメントの能力とはという視点を常にアップデートしていくことは必要だが、概ね適切である。	専門性を活用した役割分担が出来ており、適切である。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	令和 6 年度は新卒職員 2 名を採用し、若年層の雇用並びに育成に取り組んでいる。	女性管理職登用を積極的に行い、37.5%となっている
目標(値)（※2）	継続を目標	継続を目標
実績(値)	令和 7 年度は若年層 3 名を中途採用し、年齢バランスを考慮した人材確保と配置を行った。	継続して女性管理職や係長職の登用を行っている。37.5%を維持している。
団体の自己評価	若年層の職員の獲得を積極的に行っており、適切である。	女性管理職比率も高く、適切である。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	整備を行い、「えるぼし認定」に認定されている。	関連規程を策定し、定期的に研修を行い、セキュリティ確保に努めている
目標(値)（※2）	継続を目標	継続を目標
実績(値)	継続している。「えるぼし認定」上の行動目標に掲げている有給休暇取得率 50%以上を達成できている。令和 7 年度は育児・介護休業法の改正に伴い財団内規程を改正したほか、育児休暇取得率 100%を達成した。	個人情報等の取扱いに関する安全管理指針を整備し、推進したほか、全職員を対象とした「コンプライアンス研修～個人情報保護・情報セキュリティ研修」を実施した。
団体の自己評価	ワークライフ･バランスの必要性を提唱し、成果が出ていることから適切である。	適切に継続している。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	関連規程を策定し、定期的に研修を行い、ハラスメント防止に努めている	契約事務規程に基づき、適正な契約を行っている。
目標(値)（※2）	継続を目標	継続を目標
実績(値)	昨年度今年度はハラスメント研修を財団全体で実施した。また、事業におけるガイドラインも策定した。	継続している
団体の自己評価	適時、研修を実施し、適切に努めている。	適切である

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
調布市グリーンホールは、「創造性が育まれ、発展する場」「多様な人々が集う居場所」をミッションに掲げるとともに、「市民が集い、まちに活力をもたらす劇場」「あらゆる人々が参加し、共感できる劇場」というビジョンを指針に、多様な事業を展開した。その結果、入場者数(率)、地域の文化に誇りを感じるか、40 歳以下の来場者数等の評価指標の上でもおおむね目標を達成できた。 公演事業では、地域を拠点とするバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)と桐朋学園大学という 2 つの協定団体との連携により世界水準の芸術性の高いプログラムを実現、地域ならではの企画内容が市民はもとより、専門家からも高く評価された。中でもレジデントアーティストの鈴木優人や BCJ との人脈から実現したヴォクス・ルミニスの初来日と BCJ オペラでの共演は、音楽と人との結びつきを深く音で表し、来場者の心に強く印象に残る名演となった。また、クラシカル・クリスマスでは、クラシックとポップカルチャーを融合させた革新的なプログラムにより U29 販売枚数が 23%に達し、若年層の鑑賞機会創出に大きな成果をもたらした。 人材養成事業では、国際的水準での若手音楽家の育成を目的に「調布国際音楽祭オーケストラアカデミー」を実施、公募選抜された 80 人の受講生は、世界的指揮者・鈴木雅明を中心とする一流講師陣のもと、4 日間にわたる集中的なリハーサルに取り組んだ。受講生には演奏技術のみならず、将来のキャリアについて講師へ質問できるディスカッションタイムや市内各所で演奏する機会も設けた。シンガポールのヨン・シゥ・トウ音楽院との連携により海外から受け入れた参加者は市内一般家庭にホームスティし、地域における国際交流の場としても機能した。また、寄附金を活用したジュニア招待制度により 18 歳以下の子どもを公演に無料招待し、次世代への鑑賞機会の提供という側面でも意義深い成果を上げた。 さらに、地域とつながるアーティスト養成プログラムでは、昨年度から参加した若手音楽家 6 人がアウトリーチ経験豊富な講師のもとワークショップを行い、支援学級での実践に臨んだ。2 年間にわたる本講座は、単にアウトリーチの実践力を養うだけではなく、子どもたちや地域とのコミュニケーション力も養い、地域課題を解決する人材を育てる機関として他に類をみない成果を上げている。 普及啓発事業では、年齢や属性を問わず市民が文化芸術に触れる機会を創出し、多様な人々が集う居場所づくりに資する多岐にわたる取組みを行った。オープンデーでは、高齢者、障害者、子育て世代など文化芸術へアクセスしづらい層の参加が多く見られ、参加者からは「入退場自由とあり気軽に参加し安心して楽しむことができました。」といった声が寄せられた。また、アウトリーチ事業では、小学校で鑑賞型公演、中学校では合唱部の指導を行い、子どもの鑑賞機会創出および部活の地域移行への礎を築いた。 アクセシビリティの推進においても、鑑賞サポート機器の導入やコミュニケーションツールの拡充により情報保障の面での改善を図った。車椅子対応やバリアフリートイレなど設備面の整備、障害者割引も拡充しており、誰もが安心して文化を享受できる環境の基盤づくりが着実に進められている。 以上のことから、調布市グリーンホールは、創造性を育み発展する場、多様な人々が集う開かれた劇場としての社会的役割を果たす拠点へと歩みを進めることができた。今後は、以上の成果を踏まえつつ、地域社会やアーティスト、関連機関と連携しながら、まちに活力をもたらす劇場としての展開を推進していく。

備考